

茶草場の生物調査（その2）

鳥類

文 三宅 隆 写真 三宅飛鳥

世界農業遺産に登録されている茶草場農法。静岡県お茶振興課より依頼された茶草場の生物調査で調査した鳥類について報告する。

掛川市 粟ヶ岳

山頂付近の茶草場や周辺の森で、6目21科44種の鳥類が確認された。留鳥として、キジ、トビ、コゲラ、モズ、ヤマガラ、

ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ホオジロなど25種類。夏鳥として、ホトトギス、サンショウクイ、ツバメ、キビタキ、オオルリ、クロツグミなど10種類。冬鳥として、ツグミ、シロハラ、ジョウビタキ、カヤクグリ、カシラダカなど7種類。渡りの途中見られた鳥として、サシバ、ハチクマなどの猛禽類4種類が見られた。外来種としてコジュケイ、ガビチョウが確認された。静



サシバ（掛川市粟ヶ岳）



ルリビタキ（掛川市粟ヶ岳）



イカル（掛川市東山）



オオヨシキリ（菊川市上倉沢千榎）



アオゲラ（菊川市上倉沢千榎）



カケス（島田市 葛籠）

岡県RDB該当種として、絶滅危惧ⅠB類として、サンショウクイ、絶滅危惧Ⅱ類として、サシバ、ハチクマ、クマタカが確認された。粟ヶ岳山頂付近は、秋に南方に渡る猛禽類のルートになっているようだ。

掛川市 東山

茶畑、茶草場、周辺の森で、6目14科23種が確認された。環境的には茶畑が広く開放的であり、あまり鳥の棲む環境ではない。留鳥として、キジ、トビ、コゲラ、モズ、ヤマガラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ホオジロなど16種類。夏鳥としてミゾゴイ、冬鳥としてツグミ、アオジ、渡りの途中のエゾビタキが見られた。外来種としては、コジユケイ、ガビチョウが確認された。静岡県RDB該当種では、ⅠB類としてミゾゴイが、Ⅱ類としてハイタカが確認された。

菊川市 上倉沢千框の棚田

ここは、棚田と言う湿地環境の為、他とは違う水鳥の確認があった。棚田と周辺の茶草場で、10目24科46種が確認された。留鳥として、キジ、カルガモ、アオサギ、トビ、コゲラ、モズ、ヤマガラ、キセキレイなど27種類。夏鳥として、ホトトギス、ヒクイナ、ツバメ、オオルリ、オオヨシキリなど9種類。冬鳥としてツグミ、ジョウビタキ、ビンズイ、アオジ、カシラダカなど7種類。外来種としてコジユケイ、ガビチョウが確認された。静岡県RDB該当種として、ⅠB類としてサンショウクイ、Ⅱ類としてヒクイナ、ハイタカ、準絶滅としてオオタカが確認された。



ヨタカ（島田市 葛籠）

島田市 葛籠

ススキの茶草場や周辺の森で、9目24科44種の鳥類が確認された。他地域より山地の為、確認される鳥の種類も少し異なっている。留鳥として、ヤマドリ、カケス、ヤマガラ、ウグイス、メジロ、ホオジロなど21種類。夏鳥としてツツドリ、サンショウクイ、アカショウビン、ヨタカ、ヤブサメ、クロツグミなど13種類。冬鳥として、コガラ、ジョウビタキ、アトリ、マヒワなど8種類。外来種は、コジユケイ、ソウシチョウが確認された。静岡県RDB該当種として、ⅠB類としてサンショウクイ、Ⅱ類としてアカショウビン、ヨタカが、準絶滅としてヤマドリが確認された。

川根本町 尾呂久保・伐採跡地

伐採跡地のススキの茶草場や周辺の森で、4目18科31種が確認された。山地の為、スズメ目の鳥が主体であり、留鳥として、コゲラ、モズ、カケス、ヤマガラなど18種類。夏鳥としてツツドリ、サンショウクイ、センダイムシクイなど7種類。冬鳥として、ツグミ、ルリビタキ、カヤクグリなど5種類。外来種としてコジユケイ、ガビチョウが確認された。静岡県RDB該当種としては、ⅠB類としてサンショウクイ、Ⅱ類としてコサメビタキが確認された。

これらの中で、特筆すべき鳥類は、粟ヶ岳のサシバ、ハチクマなどの猛禽類の秋の渡り、東山の森のミゾゴイ、島田市葛籠のヨタカなどが挙げられる。

いずれも茶草場及びその周辺の森を含めた広い地域が必要であり、周辺を含めた保護が求められる。



カヤクグリ（川根本町 尾呂久保）